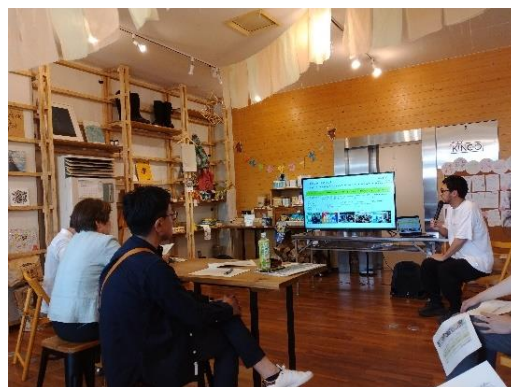


■8月1日（火）～2日（水）に振興局・ブロック別会議（道北）が開催されました。

8月1日（火）～2日（水）に上川町で振興局・ブロック別会議（道北）が開催され、講師による講演や、指導員の活動報告、施設見学等が行われました。

上川町役場産業経済課松原係長の講演では、「上川町の現状や展望について（上川町の目指す姿_将来ビジョン）」をテーマに、人口増加や観光客数の増加など、非現実的などこまで意味を持つか分からない数値目標より、人口減少を覚悟し、地域が潤う戦略を大胆かつ着実に進め、若者が活躍することが出来るまちづくりを目差し、上川町の持つ豊かな自然を活かしたリゾートタウンプロジェクトや、地域おこし協力隊を活用した地方創生の取り組みを紹介しました。



続いて、元上川町地域おこし協力隊で、現在、（株）Earth Friends Camp 代表取締役 絹張蝦夷丸さんから、「人と人 地域と人をつなぎ 暮らしを共に創る」をテーマに、上川町地域おこし協力隊任期中に立ち上げた、カフェや会社の話を中心に、町内で新たに購入したビルをリノベーションした複合施設を作る計画など、上川町の活性化の取り組みを紹介しました。



二日目には、辰巳指導員が家族とともに1月に立ち上げたカフェ「もちごやママ」にて、開業についてのお話し等を、こだわりの自家焙煎の「大豆コーヒー」、自家製の「大福」をいただきながら、聞かせていただきました。月替わりのランチも行っておりますので、近くにお寄りの際には是非、おたずねください。

■8月29日（火）～30日（水）にふる水現地研修（道央・道南）を開催しました。

8月29日（火）～30日（水）に厚真町、洞爺湖町でふる水現地研修を開催しました。

29日には、胆振東部地震で一番の被害を受けた厚真町吉野地区において、尾谷指導員による「胆振東部地震からの復興について」をテーマに、厚真町や、厚真土地改良区の概要、町民の約8割が建物被害を受けたことや、土砂被害により浄水場も被害を受け約1ヶ月、水が使えずにトイレの水を流すことも出来ず、お風呂にも入れなかった苦勞が語られました。また、復興については6,000以上もの斜面崩壊した箇所があり、完全に元に戻るには、今後何十年という時間がかかるのではと、被害の大き



さを物語る内容が語られました。

続いて、壊滅的な被害を受け誰も住まなくなった吉野地区において、1人で農業を続ける早坂



信一さんから、「胆振東部地震での体験について」の講演を受けました。この地区にあった神社が40～50m先の田んぼまで流されたこと、当日の救助作業などの被災当時の生々しい状況が語られました。また、実際に被災した立場から、「ここ最近、大雨などで避難指示が出ることも多いが、ほとんどの人は避難所に行ったことがないと思う。でも、一度行ってみたい。その一度の経験が助かる確率を高めることになる。それを周りの人に広めて欲しい。避難する人の数が増えれば行政側の経験値も増え、行政を動かすことも出来る。」との貴重なアドバイスを頂きました。

30日は、洞爺湖町財田地区へ移動して、「財田米の生産状況について」洞爺湖町役場村上主幹の案内のもと、現地視察を行いました。美味しい米作りに必要な条件である「温暖な気候」、「きれいな水」、「良質な土質」に恵まれた財田地区を実際に歩いて視察を行いました。

洞爺財田自然体験ハウスへ移動して、洞爺湖町役場ジオパーク推進課中谷主査から「洞爺カルデラ」の



成り立ち

について、洞爺湖誕生 11 万年のストーリーをわかりやすい動画を交え、説明していただきました。当日の説明に使った動画はこちらでも、見る事が出来ますので、是非ご覧下さい。 <https://toyacaldera-arch.jp/>

続いて、ふる水活動地区でもある、財田米ブランド推進委員会の取り組みについて、委員長の塩田満さんから講演を受けました。財田地区は、恵まれた土地条件、気象条件を活かし、良質な水稻生産を行って

るものの、生産者や消費者の高齢化などから将来的な安定生産・販売が危惧されており、それを解決すべく「ふる水活動地区」として活動を開始しました。地元小学生への田植え体験、稲刈り体験を通じ、財田米への理解の醸成を図ったり、農業農村ふれあいフェスタ in 赤れんがでの新米販売、洞爺湖マラソンでのおにぎり配布などで町外へもPRを行いました。今後も、財田米のブランド力向上による地域の活性化を目指し、活動を継続していくとして、講演は終了しました。



■「2023 農業・農村ふれあいフェスタ in 赤レンガ」が9月30日（土）に開催されます。

高瀬指導員（札幌）から情報提供をいただきました。

今年も9月30日（土）に道庁赤レンガ前を会場に「2023 農業・農村ふれあいフェスタ in 赤レンガ」が開催されます。

主催は、ふれあい農業・農村実行委員会であり、共催は私が所属している NPO 法人「農村と都市を結ぶ応援団」（愛称～農・と・ぴあ）です。開催目的は、消費者の農業・農村に対する理解の促進と児童の「農業・食」に対する関心の喚起を図ることとしております。子供たちにさまざまな農業体験をとおして北海道農業・農村を楽しく学んでいただきたく実施するものです。

ミニ体験メニューは、子供を中心に

- ① お米の足踏み脱穀体験、精米体験
- ② 豆さやむき体験
- ③ ジャガイモのでんぷん作り体験
- ④ 甜菜（ビート）の重量当てクイズ
- ⑤ きな粉づくり、小麦粉づくり体験
- ⑥ トラクター体験

などです。それぞれの項目について農業クイズを回答していただくと体験が出来るようになっていきます。また、参加賞がもらえるスタンプラリー、サイクルポニーの騎乗体験も実施します。

また、子供もちつき、子供きのこ収穫体験及びチラシに印刷されている QR コードから申し込む「おにぎり作り教室」も実施します。

「ふれあいファーム」登録農家や各地域協議会による農産物の直売、試食、北海道農政部等の協力による各パネル展なども実施されますので、親子揃って楽しめる企画となっていますので、みなさんふるってご参加下さい。

出店者：北海道米飯売拡大委員会（北海道米 PR）

：北海道養豚生産者協会（北海道ポーク PR）

：かもみの里（江別市農家、野菜販売）

：(株)けんぶち VIVA マルシェ（ジャガイモ販売）

：砥山ふれあい農園（くだもの販売）

：北海道きのこ生産・消費振興会（道産きのこ販売）

：富良野土地改良区（野菜販売）

：てしおがわ土地改良区（野菜販売）

：大雪土地改良区（野菜販売）

：新十津川町（野菜販売）

：土地連檜山支部（野菜販売）

：北海道農産協会（綿菓子販売）

：(株)セコマ（牛乳販売）

：NPO 農・と・ぴあ（やきそば・ふかしジャガイモ・トーキビ販売）など。

昨年に引き続き、「ふる水」ブースも出展します。ふる水指導員の皆様、活動に関するもので出展したいものがありましたら、農村設計課までご連絡ください。

■ ■ ■ お知らせ ■ ■ ■

今後の研修予定について、お知らせします。

現地研修会（道央開催）	8月29日・30日、厚真町・洞爺湖町で開催
現地研修会（道東開催）	11月上～中旬、開催予定（場所未定）
振興局・ブロック別会議（道央）	道央現地研修会と併せて実施
振興局・ブロック別会議（道南）	11月ごろ、江差町で開催予定
振興局・ブロック別会議（道北）	8月1日・2日、上川町で開催
振興局・ブロック別会議（道東）	道東現地研修会と併せて実施予定
※ <u>現地研修会は所属地区に関わらず参加可能です！</u>	

地域づくり研修会	2月、札幌で開催予定
指導員会・幹事会	2月、札幌で開催予定
全国研修会	1月、東京で開催予定

「里づくり通信」では、**皆様からの記事の提供を随時お待ちしております！**

「指導員同士でこんな情報を共有したい」、「活動について、知ってもらいたい」など情報発信に御利用ください！また、コロナウイルス対策で注目された新しいコミュニケーションツールを使ったWebセミナーやZoomミーティングなどの呼びかけも大丈夫です。関心の高いテーマに絞った実施が可能です。何かありましたらお気軽にメール・FAX・電話等で御連絡ください。

連絡先（担当：大関）

メール：oseki.ryouji@pref.hokkaido.lg.jp

FAX：011-232-0027

電話：（代表）011-231-4111（内線）27-877